

大項目	中項目	小項目	件数	主な意見	本市の考え
3次総の振り返り	全般的なご意見		47	・生活の中で多岐にわたり市の施策との関わりや恩恵を感じることができたため。子育て、観光、教育、余暇、そしてコロナ対策など市の情報によって生活が彩られ支えていただいた実感があります。 ・大学生目線では、新幹線通学への援助や待機児童ゼロの達成などの取組によって、静岡市民が生活しやすい環境が整いつつある。 ・市外から遊びに来た友人を、静岡らしいところに案内できる箇所が増えた。 ・葵区駿河区清水区がバランス良く計画されてる。 ・重点プロジェクトの要素、10の生活・環境など、市政が市民生活へ還元されたとの印象はない。 ・桜が丘病院の移転や公共交通網などの不備に関する改善が見られない。 ・まちは劇場については、生活の中で言葉を聞いたりロゴを見かけたりするくらいで、実際何をしているのかはほとんど知らない。全体的に施設の開設などが目立ち、市民一人ひとりが日々生活を送る中でのサービス充実などはあまり感じられない。また、世界に存在感を示すとうたうからには、広報など改善点は多く見受けられる。	4次総においても、「『世界に輝く静岡』の実現」に向けた各種施策を推進するとともに、本市の取組の成果を市民の皆さんに実感していただけるよう、効果的な情報発信を行っていきます。
	人口減少対策		14	・人口が減っているため住みやすいとはいえない。 ・やるべきことについてはある程度やっていたかと思うが、それが市民（＋交流人口）の利益に帰結し、市民が実感できていたかと考えると疑問が残る。総合計画がしっかり実現（市民が実感）していれば、ここまでの人口減にはならなかったのでは？ ・70万人維持という目標は適切であったのか。早くから人口減少を前提とした施策に切り替える必要があった。 ・静岡市に住みたいと思わせる長期的かつ画期的な取り組みが見当たらない。 ・最も謳われ、期待された70万都市維持が達成できず、その理由について主体的な反省がなく、世の中・時流に責任転嫁していると感じる。静岡市が努力されていると思うので、是非その努力が無にならない分析をお願いしたい。尚、その際できるだけ静岡市役所の職員自身による分析をお願いしたい。 ・Uターンして働く場所が少ない。静岡市の経済は不安定だから。	3次総では、主に人口の自然減の影響から人口の減少が続いているものの、移住促進策をはじめ、人口減少対策の取組を早くから進めてきた結果、将来人口推計が改善されており、これまでの取組の成果が一定程度あったものと考えています。人口の社会増のための取組は、4次総においても引き続き進めていきます。さらに、定住人口だけでなく、交流人口、関係人口も含めた人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにするための取組を、4次総に位置付け推進していきます。
	5大構想	全体	6	・積極的に推進していることがイベントやニュース等を通して感じる事ができた。 ・歴史文化の地域づくり、「まちは劇場」の推進など、5大構想を持って推進してくれた。ただ、まだ「まちは劇場」など認知度が低いような気もする。 ・新型コロナのこともあり、計画通りに行かなかったことは多いと思います。また、この8年の間に世の中は大きく変化しており、「海洋・地球総合ミュージアム」のように見直すべき計画もあったのではないかと思います。 世界に輝く静岡＝オンリーワンの資源を活かし最優先に進める政策、ということであれば、3つの拠点づくりではなく、駿府城に関すること一点集中でもよいのではないのでしょうか。あれもこれもでは静岡のカラーをより強く発信できない上、来年度は過去最高額の予算を立てたことに不安を感じます。 私は障害のある子どもを2人育てている母親です。社会的支援が足りないために自身の健康を維持できず助けを求めても、市にお金がないとの理由で改善んが進みません。お金の使い方、特に障害のある人に対しては生産性がないと取り残されていると感じます。 魅力あるまちとは、みんなが安心して暮らせるまちだと私は思います。私のような家庭は少ないと思いますが、その私たちが安心して暮らせるまちは多くの人が安心して暮らせるまちづくりに繋がります。 市民生活の健康・防災・共生、こちらにもっと力を入れて欲しいと思っています。 子育てしているものの肌感覚として、共生都市や移住促進、まちは劇場などの効果を感じませんでした。防災にも不安を感じます。	拠点に関しては、静岡都心を「歴史」、清水都心を「港」、草薙・東静岡副都心を「まなび」といった地域の特色を活かした取組を進めてきました。いただいた意見についても参考とさせていただき、検討していきます。 4次総においても、「世界に輝く静岡」の実現に向けた各種施策を推進するとともに、市民が安全で安心に暮らせるまちづくりを推進していきます。また、本市の取組の成果を市民の皆さんに実感していただけるよう、効果的な情報発信を行っていきます。
		歴史文化の拠点づくり	8	・静岡が誇る歴史の拠点である、駿府城で、大道芸を開催するなど、歴史と文化の発信点となっている。 ・駿府城公園を例にとれば、歴史文化の拠点となったとはとても思えない。イベント以外の駿府城公園を訪れても砂地の広場が大半を占めていた。桜はあるが、弘前のように桜の名所とはなっていない。 ・歴史の発掘・展覧は駿府「城」がない以上、観光業の集客として殆ど意味を成さず、予算の無駄というのを耳にしたことがある。公的機関として歴史文化の保存は責務であるとしても、5大構想の1つとするには潜在的なひんしゅくもあるのではないか。個人的な意見としては「子育てするなら静岡」「田舎に移住するなら静岡」という取り組みを行い県内外に大々的にアピールしてみるのはいかがでしょうかと考える。	4次総においても、歴史博物館を核とした各種施策を実施していきます。駿府城跡野外展示や葵舟の運航など、駿府城公園の魅力向上に努めていくとともに、歴史博物館を核とした各種施策を実施していきます。また、本市の取組の成果を市民の皆さんに実感していただけるよう、効果的な情報発信を行っていきます。
		海洋文化の拠点づくり	1	・官民の連携、民意の反映も十分にされているとは思えない。3次総では「海洋文化の拠点づくり」をあげてるが、来月（2022年4月）には静岡の松坂屋に都市型海洋ミュージアムという類似の施設がオープンする。田辺市長は「むしろ相乗効果が期待される」と仰っていたが、静岡を盛り上げようと民間で取り組んだその数年後に類似の施設を官が整備するというのは、民間のやる気を削ぐことになると思う。コロナ渦明けでそのまま再開ではなく計画の見直しが必要。	清水都心においては、3次総に引き続き各種施策を実施していきたいと考えています。推進にあたっては、公民連携を念頭に進めていきます。
		健康長寿のまちの推進	2	・少子高齢化問題からも、まずは健康である事は大切である。コロナについてもスポーツや生活習慣などここの免疫力を高める事も繋がると考える。 ・「健康長寿のまち」については、なかなか市が主導しているというイメージはあまりなかった。	4次総においても、医療・介護の連携や健康づくりを推進する取組を進めるため、各種施策を実施していきます。

大項目	中項目	小項目	件数	主な意見	本市の考え
3次総の振り返り	その他	インフラ整備	8	・最近静岡市内を色々歩いてみたが歩道も概ね整備されていて、歩きやすかった。ここ20年以上移動はクルマ中心で目的地だけしか気にならなかったが以前と比べると随分歩行者、自転車等にも気を配ってると感じました。 ・地域ごと名所の宣伝、案内も目につき公園等も多くあり良く管理されている。 ・道路・交通への投資が非常に少なく、特に市内南北方向への移動が改善されていない。 ・静岡市中心部の横断歩道の整備や、デッキテラスの設営など、人の動きに合わせた街づくりが感じられる一方で、大谷街道などの狭小道路や自転車通行レーンの未設置等、人が安全に暮らせる道路の整備が遅れている。	4次総においても、「世界に輝く静岡」の実現に向けた各種施策を推進するとともに、本市の取組の成果を市民の皆さんに実感していただけるよう、効果的な情報発信を行っていきます。
		施設整備	9	・駅のリニューアルや日本平夢テラスオープンは、多くの人にとって嬉しいものなのでとても良い。 ・静岡市が「歴史文化のまち」と「健康長寿のまち」を目指す都市像として掲げていることは大いに共感しますが、拠点づくり(静岡市歴史博物館、大河ドラマ館、かけこまち七間町)が目的になっているように感じます。単なる箱モノに終わらず、たとえば歴史博物館なら陳列内容を定期的に入れ替えるなど、何度も訪れてもらえるような工夫を継続してほしいと思います。 ・箱モノ事業ばかりが目を引き。3次総前半に多い改修・統合・リニューアルはまだ理解できるとして、後半の歴文施設、海洋ミュージアムは、「あるもの探し」というよりも「無いものねだり」にしか見えない。 人口減少に拍車がかかる中で、無理して作った箱モノが更に財政をひっ迫し、負のスパイラルになる未来が容易に想像できる。インフラをはじめ、本当に市民生活に資する事業にお金を割くべき。	施設整備は、点としての整備だけではなく、既存の資源を磨き上げつつ、公共投資を呼び水として民間開発の参入を促進し、経済の活性化につなげるために面的な整備として取り組んでおります。そして、それらが一体的なまちづくりの取組として進むことによって、更なる回遊性の向上や雇用の創出、交流人口の増加を通じた地域経済の活性化に繋がるものと考えております。
		子育て支援	5	・こども向けの魅力は対象者が限定的だと感じる。若年層向けのまちづくりの魅力がないと感じる。 ・他都市に比べ、子育てがしやすいとは思っていません。 ・「待機児童0」と謳っているが、実際には子どもを預けられず仕事に復帰できなかった人が多数いる。望む人すべてが仕事と育児の両立をできてこそ、本当の女性の社会進出が実現するのではないかと思う。	各種施策を推進し、子育て支援の取組を推進していきます。また、各分野の取組を推進するため共通認識として男女共同参画の推進を置くことで、様々な施策において男女共同参画の推進を意識し、女性の社会進出にも取り組んでいきたいと考えます。
		評価	7	・A評価が多い。経年的にA評価の割合が高くなっている。 ・拠点の整備など、目立つ事業はいくつかあると思いますが、それがまちにとって、どのような成果につながったのか、が見えづらい印象です。	4次総では、政策目的と実施する手段（事業）との関係を明確にし、政策実施のプロセスの評価を行う中で、必要な改善、修正が行われるよう対応していきます。

大項目	中項目	小項目	件数	主な意見	本市の考え
基本構想	肯定的なご意見		29	・静岡市が恵まれた都市環境を有すること、その「静岡らしさ」を活かす構想に共感できる。 ・静岡市とその住民の過ごしやすさと満足度を上げる努力をしようとしてる。長期、短期を通して構想を作ること自体が素晴らしいと思う。 ・市民のニーズに沿った案であると通読して感じました。また、現代的な問題（地球温暖化や新型コロナウイルス等）に関しても対応を示していることで単なる夢物語ではなく起こり得る身近な課題を取り上げられていたので、より現実的に未来の静岡のビジョンを考えることができました。	4次総の内容について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。
	目指す都市像		3	・目指す都市像が長いように感じます。市民が見てこんなまちになるんだ、と一目でわかる書き方が良いのではないのでしょうか。様々な部署からの意見をなんとか集約した苦心の結果なのが見て取れますが、「世界から注目され、人々が集まるまち」「自分らしく暮らせるまち」くらい短くて良いと思います。 ・「世界から注目されるまち」と「市民一人ひとりが人生を謳歌できるまち」の優先順位を逆にしてもらいたい。関係人口・交流人口を増やすことの重要性はわかるが、市民一人ひとりが人生を謳歌してこそ、世界から注目されるまちづくりへの活力や主体性が生まれると考えるからです。外（世界）ではなく中（市民）を優先させてほしいです。また、そもそも「なぜ世界を呼び込む必要があるのか」という点が、基本構想ーまちづくりの目標から目指す都市像の中でのロジックの繋がりが分かりにくいです。また、これまでの取り組みでもどれほど世界からの注目や流入があったのかもデータで結果検証してほしいです。 ・1、県都の意識が弱いことについて 静岡市は、静岡県の中心都市としての誇りを持つべきだと思います。歴史的にもそうですし、現代において「おまち」を大切に思っているのが静岡市民だけでなく焼津・藤枝をはじめ周辺都市の住人であることから明らかです。この当たり前の事実が、揺らいでいます。静岡県は、県庁建て替え等を理由に県庁の分散を検討しています。第3次総では、当たり前すぎて書く必要がなかった「県都の誇り」をまちづくりの目標や目指す都市像に明記すべきだと思います。 2、（静岡市自治基本条例の前文）「自立した静岡市」のもう一つの視点について 市民アンケートにあるように「全国と比較すると「レジャー・余暇生活」を充実させたいとの思いが強い」事実が指し示すのは、東京へ行かなくとも趣味を充足できるまちが求められていると言えるのではないのでしょうか。静岡市民の行動パターンを観察すると、「交通費をかけて東京などに行ってお金を落としてくる」。これらの費用は静岡に落ちない上に、静岡市民は移動時間と言う時間的ロスを強いられている。静岡市民がよく利用したい大都市にしかない施設を続々誘致してはどうでしょうか。東京に行かずに静岡で完結できる、この意味の「自立」都市を目指してほしいです。この場合、静岡市民が支払っている交通費相当額を上限に余暇施設を静岡に誘致すれば、経済合理性も十分です。静岡市自治基本条例の前文には「世界に誇れる自立した静岡市」との表現があります。おそらく、大都市制度上の権能に関する表現かと思いますが、上記のような経済活動的な意味にも解せるのでこれを何らか引用できるのではないのでしょうか。	2つの目指す都市像の「静岡市が擁する地域資源を磨き、輝かせ、世界から注目され、人々が集まるまち」と、「静岡市に暮らす市民一人ひとりが、輝いて、自分らしい人生を謳歌できるまち」の記載は、優先順位を表すものではなく、両立を目指すものであると考えています。 まずは人、市民が輝いているべき、一目でわかる表現がよい等のご意見も参考に、目指す都市像など基本構想の記載について、市民の皆さんにとってわかりやすい表現とするよう、引き続き検討していきます。
基本計画	時代の潮流		3	・概ね共感できますが、令和5年4月からスタートする計画として、まだ1年検討時期があると思うので、現在起きているウクライナ情勢をはじめとした国際情勢についても反映したほうが良いと思いました。 ・成熟と持続可能な社会を目指す理念には共感できます。そのためには身近な地域での人と人とのつながりやそれを支えるインフラやシステムが必要だと思います。⑥公共施設のアセットマネジメントが、逆の状況をもたらすのではないかということが心配です。施設の老朽化に伴う改善策は住民の意見が十分に反映されなければならないと思います。	4次総の内容について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。 時代の潮流の9項目については、昨今国内・諸外国において社会的課題となっているものを挙げています。こうした時代背景を念頭に置き、また時代背景として、ウクライナ情勢などの状況も押さえつつ、計画を策定していきたいと考えています。
	人口減少対策	肯定的なご意見	4	大都市を目指すのではなく、避けられない人口減少に対し、静岡の持つ強みを生かしながら、移住人口増加を目指すことに共感できる。	人口の社会増のための取組は、4次総においても引き続き進めていきます。 さらに、定住人口だけでなく、交流人口、関係人口も含めた人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにするための取組を、4次総に位置付け推進していきます。
		若者の流出防止	4	・これからの静岡市を支えていくのは若年層であるが、学生は少ない地元の大学を選択するよりも選択肢の多い都会の大学に進学して、少ない地元の企業よりも選択肢の多い都会の企業に就職する。静岡市の非常に大きな課題だと感じる。ちなみに浜松市の方は地元に住んだまま愛知県の多くの大学を選択でき、多くの優良企業を選択できるとの声を聞いている。静岡市に子を持つ親としては非常に寂しく、次世代を担う優秀な若年層ほど流出の課題が解消されないと感じている。 ・若者の流出は、市内に魅力的な働き口が少ないことが大きな原因だと考えているのですが、新しい産業の創出や誘致などについての施策が目立たないのが気になります。 ・人口の70万人維持を第4次計画で削除するのは仕方がないと思うが、人口の維持となるような施策をしっかりと打ち出してもらいたいと思う。文化を使った子育て環境の整備や、若者の流出を食い止めるなど、しっかりと人口維持を目指した施策をやってもらいたい。	各都心における地域づくりなどのまちの魅力を向上させる取組を通じて、地域経済の活性化を図り、新しい産業の創出や若者の流出抑制などにつなげていきたいと考えています。

大項目	中項目	小項目	件数	主な意見	本市の考え
基本計画	人口減少対策	子育て世代への支援充実	1	・生産年齢人口を増やす目的があると感じておりますが、その手段として観光誘致面が多く、実際の生産年齢人口の方が暮らしたいと思える街づくりに力を入れないと都内や近隣市町への人口流出はとめられないと思います。学生と接する仕事をしておりますが、依然として都内志向の人が多いです。また、子育てに対するサポートが近隣市町と比べて著しく少なく、家庭を持つと同時に転居する同世代も多いです。政令市ということもあって難しい面もあると思いますが、すでに子育て支援で全国的にも注目をあつめており、子育て世代が流入している明石市の手法を少しでも取り入れて欲しいです。	4次総においては、定住人口だけでなく、交流人口、関係人口も含めた人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにするための取組を推進していきます。また、適切な分析、評価ができるよう、新たな指標を設定していきます。
		人口目標	2	・人口に関して70万人維持を目標とし続けてほしい。人口維持目標があるから、それを目指すために、よりポジティブな施策の数々が出てくるであろうから。高齢化社会により自然減は免れ得ないが、人口維持不可能を認めてしまうと、街の発展を諦めたこととなると感じる。 重点目標内の、定住人口の減少を最小限に抑えつつ、持続的な経済成長を図っていくというのが矛盾するよう感じる。また、個人的には最も期待している東静岡のアリーナ誘致に関する言及がない。 ・第3次の項でも述べましたが、最大の関心ごとである人口減少に対して、あるいは70万人維持に対して、傍観者的に見えるからです。時代の流れに責任を負わせるのでは、市民への責任という面ではあまりにも短絡的で無責任だと感じます。静岡市の職員自身による、市民の意見を最大限くみ取った（その努力をした）上での、分析と構想が必要だと思います。少なくとも私や私が住む町内や小学校区で、静岡市の今後について意見を求められた方を知りません。私の育った藁科地区からも、そんな話を聞きません。市民が暮らしやすく、住みやすく、その地域を維持していきたいまちづくり、静岡市づくりを望みます。	3次総では、主に人口の自然減の影響から人口の減少が続いているものの、移住促進策をはじめ、人口減少対策の取組を早くから進めてきた結果、将来人口推計が改善されており、これまでの取組の成果が一定程度あったものと考えています。 4次総においては、定住人口だけでなく、交流人口、関係人口も含めた人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにするための取組を推進していきます。また、適切な分析、評価ができるよう、新たな指標を設定していきます。 なお、今回お示ししたものは計画の骨子案であり、令和4年8月頃に予定している2回目のパブリックコメントでは、より具体的な内容をお示した上で、改めて市民の皆さんのご意見を伺う予定です。
	横断的視点	SDG s の推進	1	SDG s への先駆的な取り組みは評価できる。	4次総の内容について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。
		DXの推進	2	・デジタル技術は、平時以外の災害等の有事時にも強いものであればいいと思いました。 ・文化もデジタルも大切だと思います！利用できる機会が提供されている（図書館やその他）のですが、私も最近知ることが多く、もっとみんなに知って欲しいです。都会に比べたら、森って感じて良さもあるけれど不便な面もやはり感じます。市でどうなるかとかのスケールではないかもしれませんが。	デジタル技術については行政においても積極的に取り入れるべきものであり、誰もがデジタル化による豊かさを享受できる地域社会の実現を目指して取組を検討していきます。また、本市の取組の成果を市民の皆さんに実感していただけるよう、効果的な情報発信を行っていきます。
	（仮）7つの柱	肯定的なご意見	2	世界的な視点での計画が盛り込まれている一方で、静岡市特有の構想が『7つの柱』に盛り込まれていることに共感できる。	4次総の内容について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。
		関連性	1	横断的視点を設定しているけれども、それが7つの柱や10の重点目標にどう影響するか見えてこない。組織作りという観点を持ったほうがいいように思われる。7つの柱は基本的にはそれぞれのエリアを輝かせる取り組みだが、シナジーがあってはいけないわけではないからもっと相互に関連性を持たせてもよいように思う。そうすることで視野が開ける部分もあるかと思う。	横断的視点については、時代の潮流に対応し、国際社会の期待に呼応していくため、7つの柱や分野別計画などにおいて取り入れていくものと考えております。関連性がわかりにくいなど、いただいたご意見につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
基本計画	（仮）7つの柱	静岡らしさの追求	4	3次総に引き続き「世界に輝く静岡」という基本的な考え方は良いと思います。特に「地域資源(静岡らしさ)を最大限に活かす」は強く共感します。ただ「7つの柱(仮)」にあげられたものは3次総とあまり変わらず「輝く静岡」となるような印象は受けません。歴史文化、海洋文化...も確かに地域資源だと思いますが「世界に輝く…」はともかく日本国内に発信するにしても“これで輝ける”という印象を受けません。これまでの各地域自治体の計画によくあるものの範疇で「静岡らしさを最大限に…」活かしたものではありません。このあたりを今回のパブリックコメントから意見を収集し、計画に反映していただけることを期待します。と同時に市内、県内、国内の民間事業者とのさらなる官民連携において、民間活力を活かし、官にしかできない役割を遂行していただけるよう期待したいと思います。	「（仮）7つの柱」について静岡らしさを活かしたものとなるよう、また、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。
		海洋文化の地域づくり	3	・清水港のまわりが発展することを楽しみにしています。 ・国際拠点港湾である清水港「海洋文化の地域づくり」はとても楽しみです。スポーツ施設（サッカー場）がJR清水駅近くに来ることを期待しています。病院も利便性の面で駅の近くに出来るとうれしいです。魅力ある街づくりが進んで行くと人が集まるのではないのでしょうか。	「海洋文化の地域づくり」において、既存の資源を磨き上げつつ、海洋文化施設などを呼び水として民間開発の参入を促進し、清水港エリアの経済活性化につなげていけるよう、取組の内容を引き続き検討していきます。
		まなびの文化の地域づくり	2	・ずっとお勉強ができる場所があるといいなと思います。 ・社会人が学ぶ環境が少ないと感じる。	3次総においても、静岡シチズンカレッジこ・こ・になどの取組を行っています。4次総においても多くの市民が学ぶことができる環境づくりについて、取組の内容を引き続き検討していきます。

大項目	中項目	小項目	件数	主な意見	本市の考え
		森林文化の地域づくり	5	・森林文化の地域づくり、特に市街地とオクシズが支えあう枠組み作りに期待します。 ・オクシズについては、静岡特有の地域資源を活用して、サステナブルな取り組み（市との協働でのキャンペーンなど）につながると良いと思う。	自然環境の保全と地域資源を活用した経済活動の両立を図り、オクシズに住む人と、市街地に住む人がともに支え合う仕組みづくりについて、引き続き検討を進めていきます。
		まちは劇場の推進	2	・まちは劇場の取組に期待しています。賑わいあふれる街中になってほしいです。 ・文化芸術を活かしたまちづくりである「まちは劇場」に取り組むことで、静岡らしさを表現していること	「まちは劇場」の推進について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。
		健康長寿のまちの推進	2	・コロナウイルスよる将来への不安や、健康への意識が高まっているので、静岡市民としても、健康や安心に対する要求は大きくなってくると思うから	「健康長寿のまち」の推進について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。
		安全・安心のまちの推進	7	・安心・安全がまず第一にくるのではと考えるため。安心・安全があって初めて歴史・海洋文化等へ取り組むことができると思う。安心・安全を支える基盤へヒト・モノ・カネを投資し、適切なアセットマネジメントを行うことにより、子どもたちの未来へ負債等残さないことが重要。 ・「世界に輝く静岡」の実現にあたっては、外国籍の住民が増えていることに伴い、お互いを理解するための多文化共生の推進が今後ますます重要になってくると感じています。お互いを尊重し合い、誰もが住みやすいまちとなることを期待しています。	安全・安心なまちづくりについて、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。また、令和4年度に静岡市多文化共生のまち推進条例の施行とともに、多文化共生推進計画の策定を予定しており、多文化共生の推進などに関する取組の検討を進めていきます。
その他	子育て支援		6	・①人口目標をなくしたことにより明確な数値目標が無くなった。 ②子育て支援について具体的な内容が何も記載されていない。 ③子育て支援について少子化は避けられないが静岡市として合計特殊出生率を高めていくのか、希望する子どもの数を叶える割合を向上させるのか、その他の新たな目標を掲げるのか、子育て支援策のさらなる充実を感じさせる目標を掲げてほしい。 ④待機児童ゼロは三次総の成果であり、それを維持しつつそこから何をプラスするのかわを示してほしい。これからは待機児童ゼロしか掲げていない自治体は子育て支援が遅れている自治体と捉えられてしまう。現状維持は退化であり、アフター待機児童ゼロの取組を始める必要がある。 ⑤先進自治体は待機児童ゼロ達成とは言わない。4月当初待機児童ゼロという表現を使い、さらに年度途中の待機児童を解消していくことを目標と掲げている。1年間で最もハードルの低い4月の待機児童ゼロだけをもって、待機児童ゼロ達成とアピールするのはやめるべき。 ・とても共感でき、良い基本構想だと思いました。「どれだけ技術が進歩し、社会環境が変化したとしても、私たちが内面に秘める本質や人間らしさを求める思いは変わることはありません。」その通りだと思います。大きく変わる世の中、どのような未来を計画するかと考えた時、未来を担う子どもたちをどのように育てるかが大きな鍵になるのではないのでしょうか？子どもの教育、学校に関することが計画に見えないのが残念です。	「（仮）7つの柱」や分野別計画の子ども・教育分野の取組を中心に各種子育て支援施策を推進するとともに、本市の取組の成果を市民の皆さんに実感していただけるよう、効果的な情報発信を行っていきます。待機児童対策等についても、いただいたご意見を参考に、4次総における取組について、引き続き検討を進めていきます
	インフラ整備		1	スーパーや病院など、郊外に住んでいても高齢者でも、不便なく暮らせるまちづくりをのぞみます。	4次総の内容について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。
	施設整備		2	・柱が増えることで拠点整備としてハコモノが増えることにならないようにしてほしい。 ・方向性としては理解できるが、現状で公表されている市の政策と異なる部分があると感じ、本当に総合計画通りの街づくりが進んでいくか疑問。例えば基本計画内で「公共施設のアセットマネジメント」が時代の潮流にあるとしているが、今後静岡市において水族館、歴史文化施設、植物園、アリーナ、スタジアム等、新規のハコモノ整備が予定されていると認識している。持続可能なまちづくり、そのためのアセットマネジメントという視点が総合計画に記載されるなら、大きな施設整備は取りやめるということなのか。計画と現実の施策との整合が必要ではないか。	4次総の内容について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。
	新スタジアム		2	・静岡の『心の公共財』である清水エスパルスを利用した街づくりが欲しいです。また、その起爆剤としての新スタジアム建設が計画に盛り込まれていないことは、市民として不満である。 ・新スタジアムについて明記がない	4次総においても、引き続き『心の公共財』である清水エスパルスと連携した取組を実施していきます。
	文章表現・若い世代の参画		2	・基本構想の目指す静岡市の都市像はおおむね共感できますが、文章表現はもう少しやさしく平易にし、子供から高齢者まで全ての市民の心に届くようにした方がより良いのではないかと思います。自治体の総合計画はあまり市民が見たり読んだりするものではないと思いますが、是非、多くの市民に読んでもらい、共感してもらい、まちづくりに参画してもらえるような総合計画にしてほしいと思います。 - そのまえに、計画の策定過程においてできるだけ多くの市民から未来の静岡市の姿についての夢や希望、意見をいただき、議論をしていただける機会をつくっていただきたいと思います。特に、小中学生、高校生、大学生などの若い人たちに参加してもらい、静岡市を一層好きになって将来は静岡市に住みまちづくりに参加したいと言う気持ちを持ってもらえるような仕掛けを作っていただくことを期待します。	基本構想については、いただいたご意見を踏まえ、より市民の皆さんにとってわかりやすい表現とするよう、検討していきます。また、令和4年度の策定過程において、市内大学の学生など若い市民の皆さんから、4次総に関するご意見、ご提案をいただいています。

大項目	中項目	小項目	件数	主な意見	本市の考え
その他	今後の検討事項		6	・横断的視点（例えば脱炭素やDXの推進）と標榜している事柄が、7つの柱とどのように関わり、進めるのか見えない。 ・目指す都市像に、「〴〵まち〴〵が輝く」、「〴〵市民〴〵が輝く」を打ち出したことは、これまで『輝く』の対象が曖昧であった「まちづくりの目標『世界に輝く静岡』」を、分かり易くイメージすることができて大変良いと思うが、以下のとおり気になる表現があったので記載しておく。 ①P6の「1策定の趣旨」中、「我が国の人口減少、少子高齢化は、深刻さを増し…」という表現があるが、P7に記載のとおり、地域活力の低下や経済活動の停滞などに影響を及ぼすのであって、人口減少、少子高齢化=深刻 ではないので、『進展』程度の表現でよいと考える。 ②P6の「2まちづくりの目標」中、4段落目に、「都市環境を有し、新しい時代…」とあるが、後段のまちづくりの目標に繋げるために、「地勢的にも日本の都市の縮図のようなまちであり、」を加筆して方が良いと考える。 ③P7の「⑥SDGsの推進」中にP9にも記載はあるが、他都市との差別化を図る大きな取組であり、公的機関が認証したものであるため、「SDGs未来都市」及び「アジアで唯一のSDGsハブ都市」を記載した方が良いと考える。 ④P9の「横断的視点」中、「③脱炭素社会の実現」とあるが、今後目指す社会の姿は、脱炭素(CO2排出ゼロ)と経済成長を両立できる社会=グリーン社会であると考えてるので、「③脱炭素社会の実現」を「③グリーン社会の実現」に変更した方が良いと考える。 ・この先、静岡市が住みやすいまちで居続けるために、どんな事業をいつまでにやるのかといった具体的なものをあわせて提示していないため、これだけを見てもイメージしにくい。 ・重点目標に設定する指標（案）が① 市内総生産額（GDP）、②市民一人当たり所得額、③「質の高い生活が送れている」と感じる市民の割合 などとされており、経済的な指標に偏っています。7ページで価値観やライフスタイルの変化に言及しており、多様な指標で豊かさを測る工夫が望まれます。	4次総の内容について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。なお、今回お示ししたものは計画の骨子案であり、横断的視点を各種施策をどのように取り入れていくのかなどについては、令和4年8月頃に予定している2回目のパブリックコメントでは、より具体的な内容をお示した上で、改めて市民の皆さんのご意見を伺う予定です。
	魅力の創出		3	・今住んでいる市民はこれで良いが、これから生きていく世代には物足りない。 ・コロナによる環境変化が否応無く迫っているのに、発想は変わっていない。静岡の魅力を活かした方向性にかけており、活力ある地域にする想像力に欠けていると思います。	4次総は2030年を終期とする中長期的な計画であることから、将来を担う若い世代の市民の皆さんにも共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。また、静岡市ならではの地域資源を活かした特徴的な取組を4次総に位置付けていきます。
	評価の方法		1	記載の内容の方向性は共感できます。一方で、その理念を具体的な施策に落とし込むときに、施策という「手段」を実行することが「目的」にならないように注意が必要だと考えます。「何を目的にして」「どんな施策を行い」「どんな効果があったのか」という視点が重要です。 また、うまくいかなかったものは、しっかりと「うまくいかなかった」と評価して、次回にどのようにつなげるのか、を考えて良いと思います。うまくいかないこと自体に文句を言うような低い層に視点を合わせる必要は無いです。	4次総では「（仮）7つの柱」において政策目的と実施する手段（事業）との関係を明確にし、事政策実施のプロセスの評価を行う中で、必要な改善、修正が行われるよう対応していきます。

大項目	中項目	小項目	件数	主な意見	本市の考え
基本構想	まちづくりの目標		1	世界に輝く静岡の実現 ← もう少し現実味のある目標に変えてください	「世界に輝く静岡」が示す都市像が、市民の皆さんによりわかりやすく伝わるよう、4次総の基本構想で表現していきます。
	目指す都市像		2	- 世界に輝く静岡のためには、人が輝いている必要があると思う。そのうえで地域資源が輝く。今のプランだと地域資源が輝く結果人が輝くとなっているが私は順序が逆だと思う。また、人が輝くまちにするという割には人に対するアプローチがないように感じる。今のプランだと地域のリソースとアセットの管理が主で、いかに人の気持ちを盛り上げるか、寄り添っていくかがわからない。 - 他の政令指定都市にはある「博物館」や「水族館」などの文化的施設が、ようやく静岡市にも整備されようとしている。ウイズコロナの時代に地域経済をけん引するファクターとしては勿論であるが、目指す都市像に掲げる「まちが輝く」、「市民が輝く」ためにも必要不可欠な施設であり、一部の声に惑わされることなく、静岡市の健全な財政状況を丁寧に説明する中、自信をもって確実に実行するところを切に願う。	2つの目指す都市像の記載は、優先順位を表すものではなく、両立を目指すものであると考えています。しかしながら、まずは人、市民が輝いているべきとのご意見も参考に、引き続き基本構想の検討を進めていきます。
	その他		1	- 施設ができて街が賑わいをみせても一過性になりかねない。持続可能な社会にするためには、そこで雇用を生み交流人口の増加につなげていく必要があると思う。歴史文化をはじめ豊かな海産・農作物、伝統工芸など静岡市には大きな魅力があるので、地域資源を活かした好循環には期待していきたい。今後首都圏からの移住者も増えると思うが、実際生活をする上では市民サービスが一番大事だと思うので、賑わいが見かけのものにならないように取り組みを進めてほしい。また、新たな価値観と生活が生まれている今、SDGs、DX、脱炭素は街を「選ぶ」うえでも重要なポイントになると思うので、市民に向けての取り組みをより明確化すべきである。魅力がたくさんあるのに何となく全て中途半端で効果的な情報発信ができていないと思うので、そこは今後期待したい。今の住まいは回覧板や広報誌も届かないので、市の情報は自ら探しにいかないといけないが、市のホームページは使いにくく情報を探すのが困難、LINEもコロナ情報と市長会見しかこない。市役所や学習センターに行けば情報はあるが、若い世代はそこに出向く機会もないので情報発信については改善すべきだと思う。私自身、首都圏から仕事で移住してきて10数年が経つが、気候がよく食も豊か、都心への交通アクセスも便利で住みやすい街だと感じている。今後県外・国外出身者も増えると思うので、より静岡市になじみやすくなるサービスや静岡市を好きになってもらえる取り組みに期待していきたい。 - 静岡市は、北に南アルプスの山々、南に駿河湾太平洋が広がるという素晴らしい自然環境や地理的条件に恵まれて、日本の東西を陸と海で繋ぐ交通の要衝として発達してきました。4次総合計画案においてもこれらを活かしながら、駿府城公園の整備などの歴史文化の地域づくり、清水港・駿河湾を活用した海洋文化の地域づくり、自然豊かなオクシズでの森林文化の地域づくりが柱の中に位置づけられて、地域資源を輝かせる取り組みを進めようとしています。この取り組みをさらに積極的に広げ、他の市町の地域資源と結びつけることで、コストを抑えながらその価値を増大させ資源の輝きの最大化を図ることが今後持続可能な社会を実現する上で大変重要になると思います。 - 例えば、歴史文化の地域づくりを進める上では都心機能充実と駿府城公園の整備だけでなく、由比蒲原から金谷までの旧東海道沿いに残る史跡などと関連づけることで、家康時代のまちづくりに対する理解も深まり、広がりをもった観光資源となることで滞在時間も長くすることができると考えられます。海洋文化の地域づくりに関連しても、国際拠点港湾としての清水港を中心にして駿河湾に關係する市町と連携した事業を進めることで、清水港を起点として駿河湾の回遊する観光客、各地域の特産品などの流れができるのではないのでしょうか。森林文化の地域づくりでは、安倍川藁科川から井川、南アルプスに至る流れだけではなく大井川に挟まれた面的な広がりを持つ魅力ある中山間地域として人を惹きつけることができると考えられます。 - このように、現在の静岡市内にある資源を周辺の市町にある資源と結びつけて考えることで行政区域にとらわれない広い視野で地域資源をとらえ直し地域資源が本来持つ魅力可能性を高めることができると思います。こうした連携つながりで魅力を増した地域資源を、中部横断自動車道や東・第二東名、新幹線、清水港、静岡空港などのインフラ活用して国内外に発信し、ヒトやモノ、経済の大きな流れをつくり出すのではないのでしょうか。 - 特に、地理的歴史的、経済的にも静岡市との関わりが深い志太榛原地域と静岡市を一体的に捉えれば、人口では110万人以上、可住地面積では800kmにもなり、地方の政令指定都市の中では上位になると思われます。ここには空港や港湾、道路、鉄道などのインフラが全て揃っており、地域資源を効率的に活用することで国内外からヒトやモノが集まり交流し住まい、企業や研究・教育機関などを誘引できる都市圏の創出を期待できます。市民への行政サービスの効率的な提供も考えられます。 - 近い将来には、リニア中央新幹線で首都圏、中京圏、近畿圏をつなぐ巨大な都市圏がつくられようとしています。この巨大な都市圏に静岡市のヒトやモノ、経済が吸い取られてしまわないよう、静岡市周辺の市町と、とりわけ志太榛原地域の市町との連携協働を強化して、民間企業や大学、研究機関などとも協力し合って、静岡県中部地域に創造的で活力のある持続可能な都市圏を創出する取り組みを積極的に進めていただくことを期待します。	「世界に輝く静岡」の実現に向けた各種施策を推進するとともに、本市の取組の成果を市民の皆さんに実感していただけるよう、効果的な情報発信を行っていきます。 横断的視点のSDGs、DX、脱炭素については、市政全般に関わる考え方として位置付けていきます。また、4次総においても、静岡市らしい地域資源を最大限に活かした取組を進めることで、人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにすることを目指していきます。静岡県の中核都市として、中部5市2町との連携のもと、広域的な施策展開を進めていきます。

大項目	中項目	小項目	件数	主な意見	本市の考え
基本計画	人口減少対策		8	・人口減少に対して、子育て支援や外国人との共生への取組を行い、静岡が多くの人で賑わう、活気あふれる街になって欲しいと思う。 ・人口減少はもうしょうがないことなので、人口の量に固執するのではなく、生産性や効率性、経済的価値の創出、イノベーションが生まれやすい環境やまちづくりにシフトし、人口減少以上の稼ぎを生み出せるまちにすることが大切だと思います。70万人の維持というフレーズがなくなった点に賛成します。 ・静岡は移住先として人気が高いにもかかわらず、静岡市は移住者が思った程増えていない。なぜなら、物価が高い、交通費が高い、不動産が高いなどの要素に加え、就職先の選択肢が少ない。また移住は上記の要素から直ぐに増やすにはハードルが高いと考えられる。ただ、生活環境は品質が高いため、高齢者が移住しやすいと思われる為、生産人口に結びつきにくい。このままでは、良い人材が増える事は益々厳しい状態が予測される。考え方の一つに関係人口を増やすと言う方法なら、静岡には合っているのでは無いかと考えます。都心から地理的に近く、都市でも地方でも暮らす生活スタイルので事です、この静岡で仕事もレジャーも楽しむワーケーションを充実させて、将来の移住先にする方法です。その為には、静岡市内でのコワーキングスペースの充実、県外からの旅行者には低額で利用し放題の交通費の設定、静岡市迄のワーケーション利用者の交通費負担等の政策で気軽に来れる対策に予算を付ける。実際、大都市から飛行機を利用すれば安くいく方法はあるにもかかわらず、静岡市は鉄道が主体の為、選択肢が限られている。 また、市内の交通網はバス・タクシーが主体で、移動費負担が大きい点がネック。更に、大企業が少なく会社員としての移住では就職先の選択肢が少ない。この点は、独立・開業促進窓口の充実で対応する事で、企業に就職する事以外の選択肢を充実させる。 茶業農家が年々減少している現実を見るに耐えません。ブランド化やお茶の文化の振興対策にも強化が必要と考えます。 高齢者にITリテラシーの教育に対する地域への働きかけと予算化により、健康長寿と地域内の情報の交換を進め、地域活性化を図る。 地域住民が集まれる場所の充実。特に私の住む神明町では使い勝手の悪い会館しか無く、高齢者の利用は危険ですらあり、地域交流の妨げになっている。早急に予算化して地域住民が集える場所が必要です。 ・確かに人口減は免れえない現実はあるが、それを諦めて欲しくありません。 私は静岡市に生まれ育ち、今後も死ぬまでこの街に住み続けたいと考えていますが、一方で人口減により衰退していく街に住み続けたいとも思いません。また、自分の子供世代に、この街は退屈だね、と思わせたくありません。 なので、これからもダイナミックな開発を続けて欲しいです。アリーナ誘致、海洋文化施設、スタジアム開発、大浜プール改修などは具体的スケジュールを決めてスピーディに行ってほしい。 ・個人的な意見としては、静岡市は住む人が住みやすい市を目指すべきだと考えていて、人口減少や観光に新しいことをする必要はないと考えている。細かいこと、交通やインフラ、教育の水準など当たり前のことに力を入れてほしい。新しいことにお金を使うとそういった当たり前のことにお金を使えなくなってしまう。堅実をお願いしたい。	3次総では、主に人口の自然減の影響から人口の減少が続いているものの、移住促進策をはじめ、人口減少対策の取組を早くから進めてきた結果、将来人口推計が改善されており、これまでの取組の成果が一定程度あったものと考えています。 4次総においては、定住人口だけでなく、交流人口、関係人口も含めた人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにするための取組を推進していきます。 また、適切な分析、評価ができるよう、新たな指標を設定していきます。 お茶関連の取組、健康長寿の取組についても、4次総に位置付け推進していきます
	横断的視点	全体	1	【4】基本計画（1）時代の潮流で9つの取組を挙げているが、（4）の横断的視点の3つは、ほぼここで説明できるので重複感がある。そもそも9つの取組自体が横断的に取り組むべきことなので、わざわざ3つ取り上げて記載していることに違和感を感じる。	4次総の内容について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。
		SDG s の推進	2	・SDGsについては「時代の潮流」と「横断的視点」の2箇所で言及されていますが、取り上げられている内容はどちらも当たり障りなく、触れておくべきキーワードとして添えられている程度の印象を受けます。ただ漫然と世界共通の目標を掲げるのではなく、SDGsの理念、本質を理解した上で、静岡のサステナビリティとは何なのか、それこそ「地域資源」と「自分らしい人生」にフォーカスするなどして静岡市独自のローカル指標を策定し、総合計画に組み込むか、リンクさせていただきたいです。国のSDGs実施指針でも地方自治体の役割の中でそれが期待されています。 ・魅力的な企業は、魅力的な人材を惹き付けると思います。これからの時代を牽引する企業が、これからの時代を牽引する人材を集めるため、SDGsに資する企業への補助金を重点的に実施してほしいです。	4次総におけるSDGsの取組について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。
		DXの推進	2	・DXの推進にあたってはデジタルデバイドの課題も無視できません。庁内連携、官民連携など多様な手法により格差解消の取組も併せて進めていけると良いのではないかと思います。 ・コロナウィルスの影響で、教室で勉強を受けられないといった状況も多いかと思います。 これからの情報社会の時代に必要となってくるIOT知識を身に付けるため、教育の現場にも、更なるIOTの導入が必要になるのでは無いかと考えております。 また、人手不足が深刻化している農業分野においても、農薬散布ドローンや、施肥時期管理アプリなど、IOTの導入による、人手不足の解消が期待できるのではないかと思います。よろしく申し上げます。	DXの推進について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。

大項目	中項目	小項目	件数	主な意見	本市の考え
基本計画	横断的視点	脱炭素社会の実現	2	・2050年ゼロに向けて、市民ひとりひとりの意識改革や行動変容につながるイベントや脱炭素に資する取組を実践しようとする個人や企業を支援する新たな取り組みを検討します。 ・世界で輝くためには日本でも輝く必要がある。 エネルギー自給率が低い日本において、化石燃料や原子力に頼らないエネルギー政策を国や大きな電力会社に任せずに、静岡市や他の自治体と連携し牽引できれば輝くことが可能ではないか？ 失敗は許されないため、静岡市独自に拘らず、実績のある国内外他都市の良いとこどりや連携により、一緒に輝いても良いのではないか。 素人考えだが、例えば、光熱費は夏より冬の方がかかるが、静岡は晴天日も多く温暖でなため光熱費を抑えることが可能で、これは一般家庭のみならず企業でもこの点は言えるのではないか？ つまり、市の施設、民間の社屋や家の脱炭素に係る資材・システムに対する新たな予算措置、助成・補助金等があれば、光熱費ゼロシティも夢ではないと考えます。 2大都市圏の間にある好立地（どちらにもヒトやモノが動けるため、移住や企業誘致、、、etc）を背景にしたグリーン政策の推進（EV用電池再利用蓄電池、ペロブスカイトソーラー等次世代太陽光技術導入検討、、、etc）により「光熱費ゼロシティによる脱炭素都市（カーボンフリーシティ）を実現する」 また、働き方の変化とDXの推進を上手く使えば、転出者の抑制、転入者の増が可能ではないか？ 例えば、かつて・今は新幹線通勤をしている人もいるが、娘の会社では大きなパネルで本社と支店を常時テレビ会議システムでつないでいるとのこと。こういった技術を使って地価が都心より安い静岡で仕事がしやすい環境整備に支援をして、サテライトシティの実現を目指してはどうか？ あわせて、懸案となっている清水庁舎の建設はもう止められないのかもしれないが、駿河区役所のように人が集まる民間商業施設と庁舎が近いことは良いことだと考えます。さらに進んで、DXの推進とあわせて海洋地球総合ミュージアムにネット窓口を併設して、清水庁舎建設をやめ、庁舎レスシティを目指すのはどうか？	脱炭素の取組について、また、働き方の変化とDXの推進について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。
			1	現住所は藤枝ですが、以前に静岡市に住んでおり、勤務は静岡市のためコメントさせて頂きました。 手広く商売しすぎという印象を受けます。人も税収も少なく、支出は増える一方なのでしょうから、もっと絞ってもよいのではないのでしょうか。政令市である、という無駄なプライドがあるのかもしれません。 具体的には、「まなびの文化」と「森林文化」は外すべきではと思います。費用対効果が低そうですから。個人的には、海洋文化には期待してます。また、このパブコメは確認すべきものや入力すべきものが多いため気軽にできず、かなりヒマな人しかやらないのでは？と思いました。	4次総の内容について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。 「（仮）7つの柱」を中心に、静岡市ならではの地域資源を活かした特徴的な取組について、引き続き検討していきます。 また、2回目のパブリックコメントにおいては、より多くの皆さんにお答えいただけるよう、わかりやすい資料を作成します。
	（仮）7つの柱	歴史文化の地域づくり	2	・新たに建設される歴史文化施設を中心に回遊する考えは良いが、その範囲は浅間神社だけではなく、登呂博物館や木枯らしの森（枕草子）、中山間地にある神社の無形民俗文化財、久能山東照宮、三保まで市全域を対象に、貸出自転車パルクルと連動した回遊・回廊構想をマップ化し、トロベイフラワーロードの整備を地元愛護会と連携して実現していくなど市民を巻き込んだ施策展開を期待します。	本市の特色である徳川氏、今川氏を中心とした歴史資源を活用し、世界中から人が集まり駿府城公園周辺が賑わうことを目指し、取組を進めたいと考えています。しかしながら、その範囲をより広く考えるべきとのご意見も参考に、引き続き検討を進めていきます。
		海洋文化の地域づくり	2	・まず清水に新しい水族館なんていらないと思います。 すでに類似施設があるのに、経営コストが高く、客単価が高くなりそうで集客率が悪そうな施設はいりません。そんな施設を作る前に、住みやすさや安心安全を重視するなら防災対策をやってください。 あほほどお金をかけた水族館なんてやめてほしいです。無駄遣い。 もっと交通の便を良くして、公共料金を一律百円とかにして車を減らし、CO2削減に努めてください。 これから高齢化がどんどん進みます。高齢者がばんばん車を運転してるなんて正直怖いです。 うちの近くでもよく衝突事故があります。交通標識をきちんと整備して事故を未然に防いでください。子どもをこの場所で育てたいと思われないと人口なんか増えません。小学校の学区もおかしいと思います。圧倒的に他の小学校のほうが近いのに学区で決められてるから学校を変えられませんか。頭の固すぎる運営はやめてください。コロナが収まる気配なく、これからもマスク生活が予想されます。片道一時間弱かかる小学校にこれから子どもを通わせないといけないのかと思うと、静岡市に越してきて後悔しかありません。コロナのワクチンも遅い、隠蔽体質でどこでコロナ感染がでたか教えてくれない、最悪の市です。住みにくいです。育てにくいです。おすすめでできません。もっとこれからここで暮らす人のためにお金を使ってください。 ・清水とは異なる「シズマエ」の海洋文化を広く世間にアピールしたい。そのためのインフラ整備も進めて欲しい。	施設整備は、点としての整備だけではなく、既存の資源を磨き上げつつ、公共投資を呼び水として民間開発の参入を促進し、経済の活性化につなげるために面的な整備として取り組んでおります。そして、それらが一体的なまちづくりの取組として進むことによって、更なる回遊性の向上や雇用の創出、交流人口の増加を通じた地域経済の活性化に繋がるものと考えております。 4次総の内容について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。

大項目	中項目	小項目	件数	主な意見	本市の考え
基本計画	（仮）7つの柱	まなびの文化の地域づくり	3	・東静岡・草薙・清水エリアには静岡大・静岡県立大・常葉大・東海大・静岡英和大があり、「まなびの文化の地域づくり」に整合するので非常に良い計画だと思います。ただ、実際にはこれら全ての大学が連携したプロジェクトというのはほぼ存在せず、大学施設や研究機器の相互利用や学生交流なども進んでおらず、各大学が個別に事業をおこなっているだけに近い状況です（コロナウィルスの影響も大きいですが）。大学間の連帯感や地域レベルで連携した雰囲気作りなどは進んでおりません。もし静岡市が主導してこれらの大学が共同参画・連携推進できるようなプロジェクトを立ち上げ、グランシップなどを活用したイベントなどで大学間の協調的な雰囲気や学術的な学生交流の機会を作り上げることができれば東静岡エリアが「まなびの文化の地域」としてより輝くように思えます。文京エリアとしての地位がより確固たるものになれば、少子化時代になっても東京や名古屋からの学生を集客する地域ブランドとしての宣伝材料や競争力が維持できるはずと考えます。政策の成功を期待しております。 ・第3次総合計画においては、学校司書の待遇改善や市教育センター学校図書館支援室の設置が実施され、標記の施策が画期的に前進したことを私は評価しています。 折しもコロナウィルス感染の影響で急速にすすみつつあるＩＣＴ教育やGIGAスクール構想のもと、子どもたちの情報拠点である学校図書館は、多様なメディアによる資料の収集・提供が期待されることとなりました。学校図書館教育は情報教育の分野と協力して、子どもたちのメディアリテラシーや情報リテラシーの教育を担っていく存在になるのではないのでしょうか。 通信環境の整備や電子資料への目配りなどが大切ですが、最も重要なのは学校司書が専任・専門・正規の条件で活躍できるような待遇の改善です。子どもたちの「読みたい知りたい」を応援し、教師の授業づくりを支えるメディア専門職としての学校司書がいる学校図書館は、学び続ける市民を育成する基礎となります。第4次総合計画では、「まなびの文化の地域づくり」が提唱されていますが、その実現の一助を担う学校図書館に大いに目を向けていただけるようにお願いします。	高等教育機関の集積という、草薙東静岡副都心の特色を活かせるよう検討を進めてまいります。いただいたご意見につきましては、今後の検討の参考にさせていただきます。
		森林文化の地域づくり	4	・森林文化のニュアンスは伝わったが、具体的なビジョンがわからない。 ・オクシズ地域は、少子高齢化の進行が特に著しい地域です。市域面積のほとんどを占めるこの地域の活用は、これからの静岡市に重要であると考えます。DXの推進、企業誘致などあらゆる策を巡らせていただき、オクシズ地域の発展を願います。	森林文化の地域づくりについては今後引き続き検討を進め、令和4年8月頃に予定している2回目のパブリックコメントにおいて、その方向性をお示しし、改めて市民の皆さんのご意見を伺う予定です。
		まちは劇場の推進	2	・多様性や寛容性を身に着け、「選ばれる都市」になるための重要な施策であるとする。市民が主体となって取り組む環境を整えていきたい。 ・駿府城公園にシアターやスクリーンを用意して、映画の放映や、まちは劇場を思わせる広告（三井不動産・東京ミッドタウン日比谷コンセプト「映画みたいな街が生まれる」日比谷劇場のまち）（ポスターetc）の掲示、またオリジナル動画を作成する（YouTubeにアップ）。	いただいたご意見を参考に、「まちは劇場」の推進について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。
		健康長寿のまちの推進	1	・健康に関する情報、セミナー等の開催	「健康長寿のまち」の推進について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。
		安全・安心のまちの推進	1	様々な取り組みが次期計画にも持ちこまれていると思います。海洋文化都市や歴史文化、森林文化、まなびのまち、まちは劇場の推進など、まちの魅力的を推進するような施策が現計画からさらに進んでいくことと思いますが、これらの分野を、高齢者、障がい者、外国人、LGBTQなどを人材として活用していただきながら進めていただくことを期待します。人口減少が進む中で、いわゆるマイノリティの方々の熱意や能力を活用しながら進めていくことは、人材確保の面でも、ユニバーサルな街づくりの面でも有効であり、世界水準の都市の実現に不可欠だと思います。今もいろいろな場面でマイノリティの方が活躍する場面は増えてきていると思いますが、特に注目度の高いこれらの分野での活躍があってこそ、市内外にアピールできるのではないのでしょうか。	令和4年度に静岡市多文化共生のまち推進条例の施行とともに、多文化共生推進計画の策定を予定しています。また、令和4年度からパートナーシップ制度もスタートさせています。4次総でも多文化共生の推進などに関する取組の検討を進めていきます。

大項目	中項目	小項目	件数	主な意見	本市の考え
その他	子育て支援		12	・こどもを育てるようになって3年ですが、静岡市には駐車場が完備されてる公園だったり、水遊び出来る場所や室内遊び場が少ないと思いました。コロナ禍で行動範囲に限られる中、密にならずに遊べる場所を探すのに苦労します。焼津や島田、藤枝、富士など無料で遊べたり、格安で遊べたりする良いところがあって、そこまで行くこともありますが、もっと近くにあれば沢山遊ばせて上げられるのになと常日頃思ってます。特に屋内遊び場が無いので、炎天下や雨の日などは家の中で過ごすしかありません。そういう施設がもっと増えてくれたら嬉しいです。 ・赤字の箱物の設置等ではなく、生産年齢人口を増やすための具体的かつ根本的な改革を期待します。我が家は既に子どもがおり、かわいく、どんな苦労をしても育てたいと思っていますが、まだ子どもがいない家庭はこの不況と政府の子育て政策の改悪続きで、子どもを持つことを諦め始めています。子どもを産みたいと思える人が一人でも増えるような環境づくりをお願いいたします。 ・待機児童ゼロのその先の対策を進めていく。 ①年間待機児童ゼロ 少子化時代を見据えて、②から⑥の対策を活かした既存施設を最大限活用した年間待機児童ゼロへの取組を始める ②量から質へ 静岡市式保育モデルの作成 全国に先駆けて配置基準の見直しを実施し、保育の質の向上プラス少子化時代の保育施設の廃園対策を実現する ③保育施設と児童発達支援施設のハイブリッド公立園の開設 少子化を見据えて公立園を保育機能だけでなく障害児を受け入れる児童発達支援施設としての機能を持つ静岡市独自のハイブリッド園を開設する。 ④保育ステーションの開設 静岡駅に保育ステーションを設置し、保育園バスで少子化により受け入れが減少する郊外の園への送迎を実施し、既存施設の活用による東京通勤を希望する家庭の支援を実現する。 ⑤保育士養成都市しずおか 研修受講のための巡回保育士の確保や配置のための人件費補助を行うとともに、全国1レベルの研修実施体制を整備し、保育都市しずおかを目指す ⑥保育ソーシャルワーカーの配置 保育園を巡回し、様々な社会支援制度と保護者を結び付けられる人材を確保するまたはスクールソーシャルワーカーとの連携体制を構築する。	子育て支援に関する各種施策を推進するとともに、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。
	情報発信		1	静岡市には多くの魅力的な面や取り組みがあるにも関わらず、それをPRする力が不足していると思っています。 例えば資料に記載がある待機児童4年連続ゼロというのは子育て世代からすればとても魅力的で、そういった面で静岡市への移住を検討する方や移住の決め手になる方もいるかと思います。しかしこの成果を多くの市民が知っているかということには疑問に感じます。市民が知らないことを他市の方が知っているのでしょうか。 また、これも例になるのですが静岡市には他都市が羨むプラモデルという大きな武器があります。これを活かしたモニュメントの作成やプラモデルデザインの活用も行われていますが、これが他市からの集客力につながるかは疑問に感じます。モニュメントの設置個所も多くの人が通る場所からは少し外れています。1つの提案ですが、市内の模型業者に呼びかけ、静岡市でしか買えない限定のプラモデルを作れば模型の町をさらにアピールでき、集客力も増すのではないのでしょうか。 上記の内容は一例ですが、静岡市には他市が羨む多くの魅力的な強みがあるのにも関わらず、静岡人の性質でしょうか、それをうまくPRできず、活かしていない、もったいないというのが現状だと思います。繰り返しになりますが、静岡市には多くの魅力的な強みがあります。それを活用し、集客力がある街づくりを期待します。	4次総においても、「世界に輝く静岡」の実現に向けた各種施策を推進するとともに、本市の特色ある取組を市内外にPRできるよう、効果的な情報発信を行っていきます。
	施設整備		1	現在批判されているハコモノ行政と言われたいような、今あるものをうまく使うという精神を期待したい。	4次総の内容について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。
	新スタジアム		6	静岡らしさの一つであるサッカー文化を活かすことを提案します。清水エスパルスは地域の誇りであり、替えの効かない静岡市の地域資源です。この地域資源を最大限に活かし「世界に輝く静岡」を4次総で築いていくことを提案します。2013年のJリーグライセンス制度導入後、新スタジアムは懸案事項であり待ったなしです。クラブからも何度か市に要望され、市民の間でも数年前に「新サッカースタジアムを考える会」が立ち上がる等、機運が上がってきています。他自治体でも、広島市、長崎市、山形市等で計画が実行段階にあります。特に広島市の計画（＊添付資料）はサッカーだけの施設にとどまらず、にぎわい機能、防災機能等の複合機能化で都市再生の起爆剤として計画されています。これの静岡市版（＝静岡らしさを最大限に活かしたもの）をクラブ、市民、民間事業者と連携して築いていく事こそ「世界に輝く静岡」に必要な最優先事項だと思います。ハコモノを作った場合、維持費が課題になりますが、クラブの強化はクラブが行いますし、情報発信も各メディアがそれぞれ報道してくれます。よく「年間20試合程度しかない…」とも言われますが、その各試合で数万単位で人が行き来するソフトは静岡市には他にありません。大きな経済効果が期待できますし、そのような考え方で試合日以外も賑わう仕組みを複合機能化できれば…と思います。現在候補に挙がっている清水駅前のENEOS所有地であれば津波対策の防災機能も複合できればより広く理解を得られると思います。是非、4次総で早期に実現できるようお願いします。	4次総においても、静岡市に根付くサッカー文化を活かし、清水エスパルスと連携した取組を実施していきます。
			1	1・数多くのウォーキングコースを色々な処に宣伝をする。（サイクリングコース・ドライブコース等々） 2・郊外の公園、施設等にも「ハローサイクル」等をより設置を（市街地には充分過ぎる位・例えば「あさはた緑地公園、今宮公園等」） 3・大谷街道の歩行者、自転車の道路の安全確保の為の整備（道幅が狭いので限界があるが静岡市内を色々歩いたが最も危険を感じた道路でした。）	

大項目	中項目	小項目	件数	主な意見	本市の考え
その他	個別施策		1	用宗・丸子や由比・蒲原に至るまで、一体感が持てるようになると嬉しい。	4次総の内容について、市民の皆さんからいただいたご意見、各個別施策等のアイディアを参考に引き続き検討を進め、共感いただけるものとしていきます。
			1	この件についても現状を把握してないので、頓珍漢な指摘になるかもしれませんが。 個人的に日本平・久能海岸・久能山東照宮は観光資源として大変有望であるにも関わらず、あまり集客能力がないように感じてます。日本平の山頂域の年間観光客数は170万人ほどのようですが経済効果は高くないのではないかと感じてます（来ても通り過ぎる）。個人的に、日本平を東京都の高尾山のような位置づけにできないかと思ってます。日本平には既にいくつかのハイキングコースがあるようですが、これは日本平山頂に続いているものの、山頂から久能山東照宮にはロープウェイ以外のアクセス方法がありません。物理的に難しいという理由とは思いますが、日本平山頂から久能山東照宮へのトレッキングコースの整備を行い、最終的には久能海岸まで至る周遊コースを作るべきかと思っています。 この周遊コースには自然（トレッキング）、歴史（久能山東照宮）、食（苺や海産物などの特産物）、交通（JRや静鉄駅からのアクセス）、地元の産業や小売店などを上手く融合させながら日本平を中心とした広い範囲での「観光地域」構想が必要に思ってます。私は日本平のすそにある英和学院大学短期大学部所属の教員なので、このような構想について大学の教員や学生と共に考えていきたいと思っています。	
			1	市内をもれなく活性化させるための策として、4次総では由比・蒲原地区のリソースを活用した活性化策に言及してほしい。例えば、漁業や水産加工業への高付加価値化支援策や、旧東海道の歴史的財産を活用した観光産業活性化、移動支援策等。せめて旧東海道の舗装をきれいにしてほしい。	
			1	学校教育のデジタル化を推進してほしい。1日遊べる公園がほしいです。	
			1	幼児教育、小中教育に力を入れてほしい。 計画を思案し実行するのは人間です。どんな計画も結局は一人ひとりの考え方が重要になってきます。様々な業界で活躍する“静岡人”を輩出するためにも教育はとても重要です。何事にも前向きに挑戦でき、起きた事に前向きな“意味付け”ができる人間に育つようなカリキュラムを組んで欲しいと思います。	
			1	・JRの駅を清水―草薙間に設置 ・高校/大学をJR駅から800m以内に誘致 ・南幹線-国道一号バイパス間の南北移動の改善（各交叉点を3車線以上にする） ・静岡南北線（新静岡IC―日本平久能山IC）の早期着工、谷津山トンネルの造成	
			1	起業家を目指す若者に返済を不要として一千万円を起業資金として渡す。毎年10人に2030年度まで実施する。8年間で80人が起業すればその内の1％でも成功すれば8億の事業費が掛かっても元は取れる。	
			1	本市は商業のまちとして購買力のある市民にも助けられ、シャッター街にならず持ち堪えてきた全国でも自慢である中心市街地。しかし、時代は変わり、大手通販サイトでの購入額が各家庭内で増加する中、商店の売り上げが激減し、空き店舗が非常に目立つようになってきた。この危機的問題に総合計画が問題視していないことが重大な瑕疵である。 まちが活性化し拡大していく右肩上がりの状況では、エリアに分けた活性化をすれば、本市の中心市街地全体の活性化につながった。しかし密度が薄くなっていくこの時代に、継続的な同じエリアで捉えるのではなく、エリアの縮小や「線」ではなく「点線」としての整備となれば、抜本的な考え方が変わってくる。 今の分野別で物事を見る限りは、既存事業の延長でしか物事が考察しにくい。 そこで本市の商業エリアをどう繁忙していくのか…この全体像あつての「各分野別」であるべきではないのか。流ちょうな事を言っている時間はない。七間町通りの空き店舗の状況を見れば、危機感が増す。 アリーナ計画は、過去の「約束」や「空き地」優先に東静岡に決定した。 しかし、アリーナやエスパルスの球場が本通り付近や葵小学校の位置にあったらどうだろう。仙台のように駅から歩いて、アリーナへ客が流れる。当然、沿線沿いの商店は活性化が期待される。 これこそが、商業の街としての戦略ではないのか。このような抜本的な改革を総合計画に掲載すべきである。	
			1	昨年愛知県から転居して来ました。 以前住んでいた街でも町内会活動の役員負担が大きいこともあり、町内会加入者が減って来ていました。 静岡市は以前住んでいた街より、町内会費が高額であるが、住居が集合住宅であり役員選出もされないため(推測)、広報の配布始め町内会の連絡も全く有りません。 また以前住んでいた街では、静岡市のような配布物を渡す事を目的とした例会は有りませんでした。 月に一度とはいえ、参加者も設営者も大きな負担だと思います。 現在広報誌はアプリおよび市のラインアカウントを登録することにより読んでいます。同様に町内の回覧物も読めるようになれば、例会も開催する必要が無くなり、負担、費用が軽減されます。 広報誌も回覧物もアクセスできない世帯のみに配布、回付するようにすれば、紙資源も印刷代も節約されます。 また町内会に加入していても知るすべの無い私のような人にも役立ちます。	
			1	p111ページ構成案中、各分野の取組を推進するための基本認識に「男女共同参画の推進」を位置付けていただきありがとうございます。市のどの所属、どの施策にも関わることでですので、ぜひ全職員がSDGsゴール5のジェンダー平等の意識をもって事業を進めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。	

大項目	中項目	小項目	件数	主な意見	本市の考え
その他	個別施策		1	昨年愛知県から転居して来ました。 愛知県では家庭で不要になったがまだ充分使用に耐える物品を販売できる場所が多くので設営されています。 (持ち込みフリーマーケットのような感じ) 転居時に活用して多くの品物を販売することができました。 ほとんど使わずに新品のようなものは捨てるのも心苦しく、必要とする場所で使ってもらえれば喜ばしい限りです。 まだ活用したかったのですが、静岡市に転居してしまい残念ながら活用できませんでした。 同様の場所が設営されれば助かります。	4次総の内容について、市民の皆さんからいただいたご意見、各個別施策等のアイディアを参考に引き続き検討を進め、共感いただけるものとしていきます。
			1	清水区の商店街は寂れており、買い物に行ける場所が少なく、魅力がない。コストコやイケアなどの大規模店を誘致して欲しい。	
			1	2019年まで開催されておりました静岡マラソンの復活を希望します。今年に入り東京マラソンなどすこしづつ市民が走れるマラソンイベントが工夫を重ねる事で復活してきております。清水駅周辺の再開発の課題（桜病院建設）もあります。是非検討戴けるとありがたいです。	
			1	横断歩道整備により高齢者や子ども、旅行者など街を歩くことに不自由を感じる人が地下道にもぐったり遠回りをしてなくて良いような街づくりをし、交通弱者と車利用者の間の格差解消を目指してはどうか。また、経済的困窮家庭への一時的な現金給付よりも、給食費の無償化や福祉サービスの継続的な提供等、現物給付による経済格差解消を狙ってはどうか。	
			1	荒れている農地の活用について,例えば竹やぶが荒れて困っている農家の土地を、タケノコ堀が好きな方に提供する手の回らない農地を、興味のある人に提供する	
			1	都内で注目されている団体等とのコラボ・連携に期待します。例えば・・・ ・チームLABOとの更なるコラボ（2015年の駿府天下泰平まつり、2014年のホビースクエア） →青葉通りの冬のイルミネーションをチームLABO監修とすれば、全国的にも注目されと考えます。 ・リアル脱出ゲーム「SCRAP」とのコラボ →東京ドームホテルと連携した謎解きと宿泊をセットとしたプランや、浜名湖パルパルでの夜の遊園地&謎解きのコラボなどが既に行われていて大変人気を集めています。 いまある施設をこれまでにない視点で活用可能で、新たな客層の呼び込みにも有効と考えます。 駿河湾フェリー&土肥温泉とコラボしてミステリーフェリーツアーなんか面白そうです。 日本平ホテル、日本平動物園、駿府城なんかもいい舞台になりそうです。 新しい清水庁舎は、「次世代の区役所」となることを期待しています。 →おくやみ窓口は大変いい取組でした。あらゆる窓口の一元化をして頂けたらありがたいです。 市議会議員選挙について20代・大学生の投票率全国一位を目指してほしいです。 →市議会議員に「若者目線」を持って頂きたいです。大学構内に投票所を設置する、などは難しいのでしょうか。	
			1	桜ヶ丘の記念塔交差点の歩道橋は狭い歩道に建っていて見通しも悪くて非常に危険。 撤去してスクランブルにするべきです！	
			1	山原中継所へ行く道はくねくねして、所々景色がひらけてハイキングにもお勧めです。 中継所の奥から新東名等望めます。 初めて見た時は感動しました。 既存の景観等もっと活用するべきです。	
			1	市の産業振興に注力し、製造品出荷額や市内GDPが県内1位を維持していけるようにしてもらいたいです。個人的には、中山間地の振興に期待しています。	
			1	静岡に訪れて来てくれた人達が施設だけの訪問でなく、まわりの商店街にも立ち寄りたと思ってもらえる様な街づくり。特に新清水駅周辺はとてもさみしく、暗いです。魚もおいしい清水に住みたい！また来たい！と思ってもらえる様な街づくり！！	
			1	・静岡市観光大使を増やす。（県外へ進学した学生に静岡市をアピールしてもらうことでつながりを実感。 ・視察旅行先を首都圏以外で模索する企業が多い。静岡市の企業と連携し、視察観光客を増やす。	
			1	・起業する若者を支援することで、個人事業主が増え、まちづくりに熱意がある市民が増える。 ・データサイエンス学部の学生を雇い情報収集と分析に力を入れることで、起業へのヒントを得る。	
			1	・スノーボードはお金がかかる。静岡市内の山にスノーボードを楽しむ施設を作る。 ・山登りやハイキングコースを増やし、県外からのお客さんを増やす。	
			1	・英語特区を設置。海外へ語学留学しなくても、静岡市で留学気分を味わえれば注目される。人口減少が進む過疎築にホームステイ型の英会話地域を創設する。	
			1	・塾に行かなくても、学校を活用しプログラミングやアプリ作成や投資など学べたらいいな ・暇そうな飲食店を利用して、こども食堂を開きたい。	

大項目	中項目	小項目	件数	主な意見	本市の考え
その他	個別施策		1	・沼上清掃工場にゴミを運搬する感覚で、車で食材も集積してフードバンクに寄与したい。 ・高齢者と子どもをつなげる、静岡型ハロウィンを開催。	4次総の内容について、市民の皆さんからいただいたご意見、各個別施策等のアイディアを参考に引き続き検討を進め、共感いただけるものとしていきます。
			1	インクルーシブ教育はすべての子どもが同じ教室で学ぶことです。静岡市も2030年までの計画を立てています。生涯の種別、重症度で分けず、希望するすべての子を同じ教室で、専門の支援を受けながら学べるようになることが理想と考えます。 現在、我が子は人工呼吸器を使いながら、地域の学校へ通っています。 障害のある子にとってもない子にとってもよいことだと実感しています。 お互いに自然に接することができたり、自分が出来ることを頑張れば良いのだとみんなが自然に思える教室の空気ができ、自己肯定感を育てることができるとも感じています。 大人は障がい者を一方的に支えているだけだと思っている方が多いと思いますが、実はgive&takeの関係で、知らないうちに目に見えない大事なことに気づかされ、心が豊かになる人もいることを知ってもらいたいです。 他にも良いと思うことがいろいろあり、インクルーシブ教育を積極的に取り組むことはいじめや不登校、多文化共生や高齢化社会の問題にまで影響があるのではないかと解決の糸口が見つかるのではないかと感じています。 これからの心の時代にインクルーシブ教育の取り組みは大事であり、インクルーシブ教育の中で育った子供たちの作る未来は、自然と共生社会になるものと期待できます。 また、学校のバリアフリー化もインクルーシブ教育において大事だと思っています。生徒だけでなく、先生や訪問者がどんな人でも受け入れられる、共生できる学校づくりが子供たちの心を育むものと思っています。	
			1	幼稚園の頃「あおいくん」のイラストを見た時の恐ろしさが忘れられません。静岡のイメージキャラクターを公募してみてはいかがでしょうか。	
			1	結局、世界から注目されるおいては、「城」などの観光スポットが必須であるように思います。いくら人物にフォーカスしても、海外から特定の武将が称賛されているケースはあまり聞いたことがありません。目で見て感動できる「観光物」が必要だと思います。 そのために、物理的にせよ、テクノロジー（VR）を使うにせよ、圧倒的インパクトのある観光名所を作ってもらいたいです	
			1	静岡市民の健康のためにも、コロナで大変な状況になっている飲食店や宿泊施設、お土産屋さんや交通機関などの経済効果も含めてとても大切であると思います。	
その他	個別施策		1	■静岡マラソンの継続的な開催のお願い 私事になりますが、静岡マラソンの前身である静岡駿府マラソン（2010年開催）を友人に誘われ走ったことをきっかけに運動する習慣ができて、それまでの太めな体型から標準から少し痩せ型の体型に変わり、心身共に健康で充実した生活ができています。家康公四百年祭に関係し、静岡マラソン2014が開催された際には、静岡市でフルマラソンの大会が開催されることを大変嬉しく思いました。走りやすいコースであることから回を重ねるごとに人気の大会となり、県外からの参加者も多かったものと思います。しかし、新型コロナウイルス感染症により2020-2022年と3年連続の中止となってしまいました。是非とも2023年の大会は開催いただけるようお願いしたいです。第3次静岡市総合計画には静岡マラソンの開催が記載されておりましたが、第4次計画でも主要な施策の1つとして実施をお願いします。 ■オクシズの自然を活かした大会の新設 静岡マラソンは全国から注目される大会ですが、ランニングなどのスポーツ大会をオクシズの自然を活かして開催できないでしょうか。コースがハードで競技性の高いもの、または、ゆったりと楽しめる観光的なものなど。自然の中での運動は体だけでなく心にも良い効果があるとされており、メンタルの不調を抱える方が多い現代に求められる催しだと思います。都市型マラソンの優良大会である静岡マラソンに並ぶような大会ができれば一市民として誇らしいですし、相乗効果もあるかと思います。	4次総の内容について、市民の皆さんからいただいたご意見、各個別施策等のアイディアを参考に引き続き検討を進め、共感いただけるものとしていきます。
			1	第3次総合計画においては、学校司書の待遇改善や市教育センター学校図書館支援室の設置が実施され、標記の施策が画期的に前進したことを私は評価しています。 折しも新型コロナウイルス感染の影響で急速にすすみつつあるICT教育やGIGAスクール構想のもと、子どもたちの情報拠点である学校図書館は、多様なメディアによる資料の収集・提供が期待されることとなりました。学校図書館教育は情報教育の分野と協力して、子どもたちのメディアリテラシーや情報リテラシーの教育を担っていく存在になるのではないのでしょうか。 通信環境の整備や電子資料への目配りなどが大切ですが、最も重要なのは学校司書が専任・専門・正規の条件で活躍できるような待遇の改善です。子どもたちの「読みたい知りたい」を応援し、教師の授業づくりを支えるメディア専門職としての学校司書がいる学校図書館は、学び続ける市民を育成する基礎となります。第4次総合計画では、「まなびの文化の地域づくり」が提唱されていますが、その実現の一助を担う学校図書館に大いに目を向けていただけるようにお願いします。	

大項目	中項目	小項目	件数	主な意見	本市の考え
	その他		11	・静岡は大好きな街です。これからもよりよい市になることを願っています。 ・行政のみとか、行政と民間との連携とかだけでなく、市民を巻き込んだ施策をやってほしい。静岡市を作るのは市民なんだというシビックプライドの醸成。	4次総の内容について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。